

男子								
学校名	仙台大学附属明成高等学校（宮城県）	八王子学園八王子高等学校（東京都）	帝京長岡高等学校（新潟県）	美濃加茂高等学校（岐阜県）	東山高等学校（京都府）	鳥取城北高等学校（鳥取県）	福岡大学附属大濠高等学校（福岡県）	福岡第一高等学校（福岡県）
出場回数	2年ぶり3回目	2年連続2回目	3年ぶり2回目	2年連続2回目	3年連続3回目	初出場	4年連続4回目	4年連続4回目
ヘッドコーチ名	畠山 俊樹	伊東 純希	柴田 勲	林 龍幸	大澤 徹也	河上 貴博	片峯 聡太	井手口 孝
①「U18日清食品トップリーグ2025」への出場が決定したことに対する感想、もしくは意気込み	まだまだ力のないチームですが全国のトップレベルのチームと試合をさせて頂きレベルアップしていきたいと思います。	昨年度も参加させていただき、とても良い経験ができたので今年も出場できてとても嬉しいです。選んでいただいたからには精一杯頑張りたいと思います。	全国の強豪チームと真正面から戦える機会に感謝しています。一戦必勝。	チーム力を向上できるように頑張る。	優勝を目指して頑張っていきたい。	U18日清食品トップリーグに参入したいとずっと思っていた中で、今回入ることができてとても嬉しいです。初出場らしく、一戦一戦全力で闘っていききたいです。	4年連続の出場に心から感謝します。優勝目指し、1試合1試合を全力で戦い学びの多いものにしたいと思います。	参加出来る事に感謝しています。優勝目指して頑張ります。
②トーナメント戦ではなく、リーグ戦となる「U18日清食品トップリーグ2025」では、どのような狙いを持って出場したいか	チームの底上げ	強いチームと試合をさせていただけることに感謝し、我々の力を試せる良い機会なので一戦一戦課題を持って取り組んでいきたいです。	課題分析→改善→実践のサイクルからチーム力を高めていきたい。	チームの戦術を徹底できるようにリーグ戦で培っていきたい。	狙うのは優勝ですが、U18日清食品トップリーグを通じて、インターハイの課題を克服し、良い材料集めをしたいと思っています。	試合の経験でしか学べないところもあるので、全国トップのチームと真剣勝負の中で、色々な学びを得たい。	週末に全国上位チームとの対戦なので、1週間を有意義に使いアジャスト力を高めていきたい。	一人でも多くの選手に経験させたい。
③今年度のチームの特徴	運動量のあるオフェンスとディフェンス	激しいディフェンスから速い展開の攻撃が得意です。	どこからでも点数が取れるメンバーです。泥臭さや粘りがあれば更に上を目指せる。	若いチーム（経験値的にも、年齢的にも）なので、U18日清食品トップリーグを通して早くできるようにしたい。	高身長ながら速い展開のパスケ。ハーフコートではピック&ロールを使って攻めます。	サイズが小さいが、しっかり守って走るチーム	選手層の厚いチーム。ディフェンス強度が維持でき、内外のバランスが取れたオフェンスを目指す。	経験がある三年生を中心にしっかり守るチーム。
④今年度のチームでエースとして期待したい選手、カギを握る選手、とその理由	全員。日替わりでエースが変わるチーム	畠山 キャプテンでチームの中心選手。ゲームメイクしながら自分でも切り込んでいける。 花島 激しいディフェンスができ、留学生との合わせもできる 照井 スリーポイントシュートが得意	赤澤 翔心 試合の流れを作ってくれる選手 藤田 珀 積極的にバスケットに向かってチームへの貢献を期待している。	鈴木陸音、渡辺陽翔（エースとして期待）・・・3年生として昨年のU18日清食品トップリーグも経験をして、チームを引っ張れるかどうか。 オラインカ（カギを握る選手）・・・1年生の留学生で伸び代がたくさんあるので、試合を経験してどうなるかが楽しみである。	中村颯斗 高確率なアウトサイドシュートでチームを勝利に導く。	アズカ 精神的にもプレー的にも中心となる選手	白谷 得点力に期待 中村 3Pでチームの得点力に拍車をかける	シー・ムサ 大黒柱になってほしい。
⑤意識している対戦カードとその理由	全チーム。トップレベルのチームにどこまでできるかチャレンジできるから	全チームですが、インターハイで敗戦した仙台大明成や福大濠、福岡第一は意識しています。	どのチームも高いレベルだと考えています。全ての試合、良いコンディションで戦わせたい。	全チームとの試合を意識して戦います。		全チームです。初めて対戦するチームや、前に対戦して負けてしまってるチームもあります。どのチームとやるのも意識しています。	八王子 インターハイリベンジ	全チーム。インターハイに出れなかったチームですから、各チームの胸を借りて頑張ります。

男子								
学校名	仙台大学附属明成高等学校 (宮城県)	八王子学園八王子高等学校 (東京都)	帝京長岡高等学校(新潟県)	美濃加茂高等学校(岐阜県)	東山高等学校(京都府)	鳥取城北高等学校(鳥取県)	福岡大学附属大濠高等学校 (福岡県)	福岡第一高等学校(福岡県)
出場回数	2年ぶり3回目	2年連続2回目	3年ぶり2回目	2年連続2回目	3年連続3回目	初出場	4年連続4回目	4年連続4回目
キャプテン名	新井 慶太	畠山 颯大	清水 天太	鈴木 陸音	佐藤 凪	新美 鯉星	勝又 絆	宮本 聡
①「U18日清食品トップリーグ2025」への出場が決定したことに対する感想	2年ぶりのU18日清食品トップリーグなので、楽しみな気持ちです。	関わっている全ての方々に感謝をしたいと思います。全国の強豪と試合ができることが楽しみです。	自分たちの更なるレベルアップが図れる良い機会なので、とても楽しみにしています。	去年の先輩方が繋げてくれた貴重な大会なので一戦一戦全力で戦いたい。	3年連続でU18日清食品トップリーグに出場できることをとても嬉しく思います。	懂れていたのもとても嬉しいです。	今年もこの素晴らしい大会に出場することができ、嬉しいです。	3年連続出場させていただくことに感謝し、第1回大会以来3年ぶりの優勝を目指します。
②「チームとしてU18日清食品トップリーグ2025」でどのようなバスケットを見せたいか	高校生らしく、一生懸命頑張る姿をみせたい。	激しいディフェンスからのブレイク。	持ち前であるディフェンスをより磨き、帝京長岡らしい泥臭いプレーを見せたいです。	激しいディフェンスからの速いトランジション。	東山の武器であるピックアンドロールに加え今年の特徴であるスピーディーな展開のバスケットボールを見せたいです。	自分達の持ち味である粘り強いディフェンスから走ってアウトナンバーを作って得点をするのを見せたい。	チームで戦うバスケット。	福岡第一高校のモットーである堅守速攻を体現し、観ていて楽しいバスケットを見せたい。
③自分自身はどのような役割を持って「U18日清食品トップリーグ2025」に挑みたいか	チーム全員がいつでもまとまった状態で試合に全力で挑めるような雰囲気作りをして、試合に出た時は自分のやるべきことを徹底して行きたい。	積極的にシュートを狙って点数を伸ばしたい。	キャプテンとして試合に出ている時も出していない時もチームを鼓舞していきたい。	ポイントガードとして試合をコントロールしながら自分でも点をとってチームを勝たせられるようにしたい。	キャプテンとして、PGとしてチームを勝利に導くパフォーマンスを毎試合できるようにしていきたいです。	自分自身は点数をたくさんとってチームを勝たせたい。	泥臭いことに加えて、今までより進化した自分を見せたい。	福岡第一のポイントガードとして、ディフェンスでもオフェンスでもゲームをコントロールし、チームを勝たせるという役割を持って挑みたい。
④「U18日清食品トップリーグ2025」ではどのようなことが楽しみか	独特の雰囲気が会場でプレーすること	U18日清食品トップリーグでしか味わえないあの雰囲気です。トップレベルのチームと試合して全国の皆さんに八王子のバスケットを見てもらうこと。	日本のトップのチームや選手たちの強さを肌で感じられることです。	凄くレベルの高い高校が揃う大会なので試合ごとにレベルアップできるように頑張る。	毎試合素晴らしい環境や多くの観客の皆さんの前で試合ができる事が楽しみです。	強豪と試合ができること。	強豪と試合ができること	インターハイに出られなかった悔しさをU18日清食品トップリーグの舞台でぶつけることができるというのが楽しみ。
⑤「U18日清食品トップリーグ2025」への意気込み	明成高校らしいバスを展開して、全勝目指して頑張ります	チーム一丸となって楽しみながら全力プレーで優勝します。	一つ一つの試合を大切に、一戦必勝で頑張ります。	強豪チームが揃う大会なので一勝でも多く勝てるようにチーム全員で美濃加茂のバスケットを見せれるようにしたい。	この大会に関わる全ての方々、応援して下さる方々への感謝の気持ちを忘れず、毎試合全力で戦います。	優勝目指して頑張ります！	優勝します！	毎試合チームとしても個人としても成長し、優勝します。
⑥意識している対戦カードとその理由	鳥取城北 インターハイのリベンジを果たしたい。	鳥取城北 インターハイ決勝のリベンジだから。	全てのチームです インターハイで敗戦した、鳥取城北高校は意識しています。	福岡第一 前のスプリングカップで一度戦った時とは違う自分たちのバスケットをできるようにしたい。	仙台大明成 インターハイで負けたので必ずリベンジしたいから。	福大大濠 去年のウインターカップ決勝、ニューイヤーカップで負けてしまっているから。	東山高校 まだお互いフルメンバーで試合していないから。	福大大濠 インターハイ予選で負けた相手であり、毎年何度も対戦する相手なので、どの試合でも負けたくないという想いがある。

女子								
学校名	日本航空高等学校 北海道(北海道)	千葉経済大学附属高等学校(千葉県)	昭和学院高等学校(千葉県)	岐阜女子高等学校(岐阜県)	桜花学園高等学校(愛知県)	京都精華学園高等学校(京都府)	精華女子高等学校(福岡県)	慶誠高等学校(熊本県)
出場回数	初出場	2年ぶり2回目	2年連続3回目	4年連続4回目	4年連続4回目	4年連続4回目	2年ぶり2回目	2年連続2回目
ヘッドコーチ名	矢倉 直親	池端 直樹	鈴木 親光	安江 満夫	白 慶花	山本 綱義	大上 晴司	右田 卓也
①「U18日清食品トップリーグ2025」への出場が決定したことに対する感想、もしくは意気込み	大変光栄に思います。私たちはU18日清食品トップリーグに出場するのが夢でした。一つでも多く勝てるように精一杯戦います。	選手たちの努力のおかげで出場させていただきます。謙虚な気持ちを忘れずに参加させていただきたいと思います。	インターハイに出場が出来ていないので気後れしていますが、出場するチャンス을 いただけたので上位のチームにしっかりとチャレンジしていきたいと考えています。	このような素晴らしい大会に参加できることに感謝しかありません。国内U18世代のトップチームと試合をさせていただけるので精一杯頑張ります。	今年も参加出来て嬉しいです。挑戦を楽しみながら、桜花学園らしいバスケットで一戦一戦全力で戦います。	4年連続参加させていただけることは、とても光栄です。選ばれたからには、最高のパフォーマンスを出していきたい。	今回U18日清食品トップリーグへの出場が決まり大変感謝申し上げます。このチームはキャリアがなくこのような強豪チームとの対戦は何よりも大きな経験になることと思います。しっかりと準備をしてチャレンジャーとして臨みたいと思います。	昨年の結果で出場することができました。このような大舞台でバスケットボールができることに感謝し、自分たちの力を精一杯発揮します。
②トーナメント戦ではなく、リーグ戦となる「U18日清食品トップリーグ2025」では、どのような狙いを持って出場したいか	まずは、U18日清食品トップリーグを通じて強化を図ります。次に、控えの選手にも出場の機会を増やしてチーム力の底上げを狙います。	負けたら終わりでない環境だからこそ、思い切りの良いプレーを選手たちにはしてもらいたいです。	すべての試合でチャレンジャーらしく戦いたいと共に下級生の育成を目指していきたいと考えています。	対戦相手に対する準備をしながら自チームの強化をしていくことができるので、選手の経験値も高めることができます。チームの選手層を高められるように、かつ価値にこだわりながら挑みたいです。	試合を通してチームの強化と選手の育成を図る。	試合を重ねる毎に、結果を出していけるようにしたい。	多くの選手にチャンスを与えてチームの底上げを図りたい。	勝っても負けても全国の強豪チームと試合をさせてもらえるので、1試合毎の学びを大切に、U18日清食品トップリーグにしたい。
③今年度のチームの特徴	激しいディフェンスからのボールプッシュが強みです。	身長がない分、運動量やスピードで戦うチーム	ディフェンスからのトランジションの速い展開を目指します。	粘り強いディフェンスからブレイク。	ディフェンスからブレイク。	U18日清食品トップリーグ2連覇を獲らせていただいているが、チームに今、何ができて何が足りないかをもう一度、立て直して自分たちらしい、ディフェンス、粘りある走るバスケのチームを作り出す。	絶対的エースのタイウオを軸にオフェンスを組み立て、ディフェンスではサイズのミスマッチをチームとしてカバーする。また1年生留学生アイシャの加入でトランジションに緩急が出てきた。	身長は昨年に比べて小さいが、チーム力で粘り強く戦う。
④今年度のチームでエースとして期待したい選手、カギを握る選手、とその理由	①チームのエース:庵原有紗→得点、リバウンド、ディフェンスとチームの核となる選手 ②チームのエース:宇都鈴々奈→シュート ③カギを握る選手:中村泉咲→ディフェンスとゲームコントロール ④カギを握る選手:ファトゥマタ カマラ→ペイント内の攻防	エース:坂田萌(スコアラーとして大会通じてやりきってもらいたい) カギを握る選手:浅野愛桜(彼女のレベルアップが必要である)	試合に出場する選手全員がカギを握る選手であり、エース候補と考えています。理由としては全員が一丸となって戦って行きたいと考えています。	キャプテンの三宅香奈チームのことを常に考え、勝利への気持ちに揺るぎがない。	勝部璃子 攻守においてチームを引っ張る活躍に期待 濱田ななの、山田桜来、イシボディバイン 3年生らしいリーダーシップと力強いプレーがチームの浮上の鍵を握る	3年の奮起、2年吉田、満生、谷の成長と今まで影に隠れていた選手の発掘が楽しみである。	絶対的エースはタイウオにはU18日清食品トップリーグを通じてスタミナ強化！ カギを握るのはPG盛山。彼女のメンタル的成長がこのチームの勢いを左右する。インターハイ準決勝では勝負所での消極的なプレイがチームなら大きく影響した。	陽本麻生。チームのエース
⑤意識している対戦カードとその理由	桜花学園 インターハイで負けているから	岐阜女子と昭和学院:対戦経験がある為、自分たちの成長を実感できると思う。	全国のトップチームとの対戦なので全チームと内容のある試合をしていきたいと考えています。	日本航空北海道高校インターハイ準決勝で敗戦してしまったのでリベンジしたい。	7チーム全チーム意識している。 どこが相手でも桜花学園らしいバスケットで戦っていきたい。	インターハイで負けたチームの日本航空北海道、また桜花学園、岐阜女子は、意識高いチームでもあるので、常に意識していきたい。	対戦させていただけるチーム全て意識していますが、その中でも桜花学園と日本航空北海道。桜花学園さんはインターハイで対戦させて頂き一人ひとりのスキルとの高さのマインドの強さをとても感じました。その一人ひとりしっかりと戦える準備(スキル、マインド)をして、ぜひもう一度チャレンジしたいです。 日本航空北海道さんは高さとうまさを兼ね備えた素晴らしいチーム。留学生以外のマッチアップのミスマッチ(特に庵原選手)をどのように対応できるのかチャレンジしてみたいです。	全チーム。全てのチームが格上の相手になるので、楽しみ。

女子								
学校名	日本航空高等学校 北海道(北海道)	千葉経済大学附属高等学校(千葉県)	昭和学院高等学校(千葉県)	岐阜女子高等学校(岐阜県)	桜花学園高等学校(愛知県)	京都精華学園高等学校(京都府)	精華女子高等学校(福岡県)	慶誠高等学校(熊本県)
出場回数	初出場	2年ぶり2回目	2年連続3回目	4年連続4回目	4年連続4回目	4年連続4回目	2年ぶり2回目	2年連続2回目
キャプテン名	西川 葵	浅野 愛桜	若井 日和	三宅 香菜	濱田 ななの	坂口 美果	森田 栞名	澤田 樹奈
①「U18日清食品トップリーグ2025」への出場が決定したことに対する感想	U18日清食品トップリーグ出場を目指して、インターハイで結果を残すことを目標にできたので、率直に嬉しい。	率直に嬉しかった。1年次に一度経験をさせていただいて、大会の価値を知っているからこそ自分たちの代で出場できることはとても光栄に思います。	出場できると思っていたなかったので、驚きが大きいです。自分たちが出場できることに感謝を忘れないで戦いたいと思いました。	全国のトップレベルのチームと試合ができる機会をいただき、嬉しく思います。	全国の強豪チームと戦える貴重な機会をいただいたことに感謝し、1試合1試合を大切に、全力で挑みたいと思います。	限られたトップのチームが出場する中、私達のチームが再び出場することができ本当に嬉しく思っています。	私たちは、経験もキャリアもまだまだ少ないので、U18日清食品トップリーグに参加させてもらって、全国のチームと試合をできるということで、またさらに自分たちが成長できる機会になると思っています。とてもありがたいです。	先輩たちが出場権を残してくれたので感謝の気持ちでいっぱいです。また素晴らしい環境で強豪チームと試合経験が詰めるためすごく楽しみです。
②「チームとしてU18日清食品トップリーグ2025」でどのようなバスケットを見せたいか	①堅いディフェンスからの素早い速攻 ②3年生が積み重ねてきたチームワークのあるプレー ③ガード・フォワードのドライブ ④センターのハイロー	出場チームの中で身長が1番低いチームだからこそ、ブレイク、ハードディフェンスなどを発揮し観ている人をワクワクさせられる展開にしていきたい。	全員で守りきる守備で、アーリーオフェンスに繋げるバスケットを見せたいです。	自分たちの強みである粘り強いディフェンスから試合の流れを掴み、1試合を通して走り勝つバスケットを見て欲しいです。	桜花学園らしいパス、DFからブレイクで走るバスケットを見たいです	チーム全体の団結力や向上心をさらに高めて、これまでとは一味違う、阿吽の呼吸で戦うチームの姿を見せていきたいです。	チームで守るディフェンスから流れを作ってくるバスケット、私たちのチーム力に注目してみてほしいです。	インターハイで結果が残せず悔しい思いをしたので、自分たちよりも強い相手に対して攻め気を忘れず戦っていききたいです。
③自分自身はどのような役割を持って「U18日清食品トップリーグ2025」に挑みたいか	キャプテンとして、チームを鼓舞しながら一つ一つの試合に目標を持って臨めるようコミュニケーションを取る。プレーでは、スピードを活かした速攻やドライブ、激しいディフェンスでチームに貢献したい。また、自分自身の課題を試合で克服できるよう、練習してきたことがどれだけ相手に通用するのか、色々試して成長していく。	得点を取る、周りを生かすなど状況に応じたプレーでチームを勝たせられるポイントガードになりたい。	雰囲気やゲームの流れが悪いときに立て直せるような精神的な軸になります。	キャプテンとしてチームを支え、苦しい時こそ自分がやるという強い気持ちで勝利へ導きます。	自分はキャプテンとして、プレーだけでなくコートの外でも声をかけてチームを引っ張っていけるように頑張りたいです	目立つプレーばかりにこだわらず、泥臭くチームのために全力を尽くすプレーを大切にしたいです。そして、仲間のミスをカバーしミスをミスとさせないようなプレーをしたい。	インターハイの負けで自分自身、たくさんの課題が出たので、1番はチームを鼓舞するリーダーとして、誰よりも熱い気持ちを持ってやるということを持って試合に挑みたい。	チームが苦しい状況でも盛り上げ、点が欲しい時に自分が点を取りに行きチームに勢いをもたせるようにしたいです。
④「U18日清食品トップリーグ2025」ではどのようなことが楽しみか	普段、北海道の中でしか試合をする機会がないため、高校のトップチームとたくさん試合をすることが出来るのが楽しみ。また、音響や解説もついていたり、会場で日清食品が使われている場所が多いので、それも楽しみ。	レベルの高いチームとの対戦できること、プロレベルの環境で試合ができるのが楽しみです。	全国トップレベルのチームと試合ができることです。自分たちが全国レベルのチームとどこまで戦い合えるのかが知れること。	全国各地で試合が行われるため、岐阜女子のバスケットをたくさんの人に見ていただけるのが楽しみです。	音響や雰囲気が、インターハイやウインターカップとは違うところが楽しみです	今までの反省を改善しつつレベルの高いチームと対決することができ、中々できない貴重な経験つむことが出来たりチームとして高め続けることができること。	まだ戦ったことのない全国のチームと戦うことができるので、自分たちが練習で準備してきたことが大きな舞台で発表できることがすごく楽しみです。	強豪チームと試合ができることや、プロのリーグのような会場の雰囲気なので楽しみです。
⑤「U18日清食品トップリーグ2025」への意気込み	毎試合個人としてもチームとしても目標を持って、ウインターカップに向けて成長できるように、自分たちの力を出し切れるよう全力で頑張ります。どのチームよりもU18日清食品トップリーグを楽しみながら、自分のプレーがトップチームにどれだけ通用するのか、チャレンジしていきます。	前回の結果を越えられるように頑張りたい。	挑戦者として、全力でぶつかっていきどんな相手にも臆することなく、一戦一戦を大切に最後まで諦めずに戦い抜きます。	感謝の気持ちをコートで表現して、一戦一戦全力で戦い、全勝優勝を目指して頑張ります。	この機会を全員で楽しみ、桜花一丸で優勝目指して頑張ります	インターハイでベスト8という結果を残した今、これまで感じていた重圧にとらわれず、新たなチャレンジャーとして、1戦1戦を大切に戦っていきたいと思います。	インターハイでは3位という悔しい結果で終わっているの、チームとしてもさらにレベルアップして、やるからには優勝目指して頑張りたいと思います。	出場するからには勝ちに行き、先輩たちが自分たちに残してくれたように、自分たちも後輩たちに残せるようにしたいです。
⑥意識している対戦カードとその理由	桜花学園 インターハイの決勝戦では負けているので、U18日清食品トップリーグでは勝ちたい。	岐阜女子と昭和学院 対戦経験があるからこそ自分たちの成長が感じられる。	千葉経済大学附属高等学校 理由は、インターハイ予選で悔しい負けをしたので、圧倒的な点差をつけて勝ちたいと思います。	日本航空北海道 インターハイの準決勝で負けて、リベンジしたい相手だからです。	京都精華高校 インターハイで対戦できてなく、去年も負けていてリベンジしたいからです	日本航空北海道 インターハイでは逆転を許し、惜しくも敗れてしまいました。あの試合を通して、自分たちに足りないものや甘さに気づくことができました。その経験を糧に、今大会では成長したプレーをぶつけていきたいと考えています。	桜花学園 インターハイで対戦して、これまで自分の中にあるエネルギーを表に出せるチームは初めてで、それに負けてしまったなというチームの課題があったので、次はそれに対してどこまで自分たちがそれを超えていけるかという挑戦をして、インターハイのリベンジをしたいからです。	京都精華です。 去年のウインターカップ、今年のインターハイで悔しい結果で終わってしまっているためです。